

緊急追加企画 公開シンポジウム

第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会に先立ち平成 23 年 8 月 28 日、緊急追加企画として公開シンポジウム「東日本大震災に負けない—全国産婦人科医の連携」が行われました。シンポジウムでは八重樫伸生教授が「東日本大震災 宮城県の場合」と題して、また石巻赤十字病院長谷川良実先生が「被災地勤務産婦人科医の立場から」と題して発表されました。本シンポジウムでは被災側と支援側の発表から災害時の新たな通信手段の構築の必要性を強く感じました。



主な発表内容

東北大学病院の取り組み、周産母子センター業務の推移、母体搬送の推移、情報伝達の困難性、支援物資、関連病院への派遣、診療再開など

主な発表内容

津波被害、震災直後の対応、産婦人科の対応と診療体制、震災後の分娩状況の変化、震災 3 日間、産科病棟 & 分娩対応に困ったこと、産婦人科医師としての役目など



第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会

第 63 回日本産科婦人科学会学術講演会が 8 月 29 日～31 日まで、大阪国際会議場とリーガロイヤル大阪で行われました。2 日目のシンポジウム 2 の子宮体癌治療戦略の新展開で新倉 仁准教授が「センチネルリンパ節の同定、生検による微小転移の検索—確実なリンパ節廓清と治療戦略の個別化—」と題して発表されました。非常にわかりやすく発表され、活発なディスカッションから本発表が注目されていることが伺われました。



また学術集会では当科から 4 人の先生が座長を務め、発表は高得点演題プログラムで室月 淳教授、優秀演題賞候補プログラムで豊島将文助教、産婦人科ガイドライン解説で武田 卓准教授、一般演題で 12 演題が発表されました。

震災を乗り越え演題を取り下げることなく無事発表&座長を終え、皆様お疲れ様でした。

座長を務めた先生：八重樫伸生、伊藤 潔、菅原準一、永瀬 智

一般演題で発表された先生：武田 卓、佐藤多代、星合哲郎、黄志芳、吉永浩介、築地謙治、徳永英樹、李賓、楽暁妮、大槻健郎、宇都宮裕貴、岡本 聡